片葉の葦群落見つかる

一越後七不思議のひとつが柏崎市に―

佐 藤 俊 男

越後にゆかりの深い親らん聖人の伝説にまつわる「越後の七不思議」のひとつ、「片葉の葦(あし)」が柏崎市内安田地内の信越線沿いに見つかったので紹介したい。 片葉の葦は越後流罪となった聖人上陸の地とされる直江津居多ケ浜が有名である。強い風の影響などで、葉が片方に寄ったヨシ(葦の植物名)の生態とも見られているが、その群落は珍しいということである。

この群落を見つけたのは、市内安田で農業を営む片桐敏雄さん(59才)。片桐さんのお宅は近くの浄土真宗の寺の檀家であり、同氏は宗祖・親らん聖人のことについてはかねてから関心をもち、片葉の葦にまつわる聖人の奇跡伝説のひとつとして以前から耳にしていたという。昨年、自宅から約50メートル離れた田圃で、葉が茎の片方にしかついていないヨシに気づき、今年も興味をもって眺めていたところ、同じようなヨシを確認し、注目してみると、片葉のヨシは通常のものに混じって点在しており、場所によっては群落を作っていた。早速、寺の住職に話したところ、住職も「それは珍しい」と驚いたという。

直江津居多ケ浜の片葉の葦は、鳥屋野の逆さ竹、小島の八房の梅、珠数懸桜、保田の三度栗などと並び、「越後の七不思議」のひとつとして知られている。居多ケ浜は聖人の越後流罪で、越後への第一歩の地とされ、強い潮風の吹きすさぶ浜には、七不思議も第一番として片葉の葦の石碑(上越市国府)が建っている。

ヨシはイネ科の多年草で、葉は通常茎の左右にたがいちがいにつくが、風向きによっては一方に寄って片葉となることもあるという。県自然環境保全審議会の専門調査委員を長年務める柏崎市立第3中学校の相沢陽一校長は「(片葉の章のことは)名前だけ聞いていた。気をつけて見ているわけではないが、伝説として伝えられるくらいだから、そうそうあるものではない。1、2本だけならともかく、群落としてある以上、珍しいものといえるでしょう」と話している。

柏崎はイソニガナ(キク科)の県内唯一の繁殖地で、雪割草の県内三大産地のひとつであるなど、山野草の宝庫としても 知られているだけに、相沢校長は、「身の周りの植物に目を向けていると思わぬ発見があるものですね」と目を細めている。

(地元新聞「柏崎日報」より)

(柏崎市立博物館 さとう・としお)



